

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2 【かかわる】	⑭【復旧・復興へのあゆみ】 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況をしらべ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。	総合的な学習
<p>【題材】 総合的な学習の時間（人の絆の大切さ・地域づくり）「復興支援 in 野田」</p> <p>【対象】 3年生～6年生</p> <p>【実践の概要・詳細】 7月に野田村を訪問した際に、野田村商工会の方に現在の復興状況について十府ヶ浦の復興、道路の整備、住宅の再建、防波堤の建設等、現地を案内していただいた。</p>		
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p style="color: red; margin: 0;"><児童の学習プリント・感想より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家がいったって、早く元気な野田村に戻ってほしいと思う。(3年R児) ・まだまだ復興していないことがわかった。早く復興してほしい。(4年M児) ・去年来た時は、野田の海は濁ってしまったと説明を受けた。今年はきれいになってきたという話を聞いて海がもとに戻ってきているということを感じた。(6年K児) </div> <div style="width: 60%; text-align: center;">  </div> </div>		
教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1 【いきる】	⑤【やり抜く強さ】 救援活動などに従事した人々の働きと苦労を通して、どんな状況においてもやり抜く強さについて考える。	生活科 総合的な学習
<p>【題材】 生活科「いろいろなひとと なかよしになろう」 総合的な学習の時間（人の絆の大切さ・地域づくり）「復興支援 in 野田」</p> <p>【対象】 全学年</p> <p>【実践の概要・詳細】 11月に野田村を訪問した際には、震災津波の時の避難所になったえぼし荘の支配人の方に当時の被害状況、えぼし荘の従業員の方々の思いや働きについて写真等を見せていただきながら説明をしていただいた。避難された方々を第一に考え行動された従業員の方々の行動を児童が知る機会となった。</p> <p>「海の色が変わり、波が押し寄せてきたときに、漁業をしている人たちから「うわぁ・・・、(船が、漁業の施設が)流される！」という悲鳴が聞こえました。(中略)時間がたつとたくさんの方が避難してきました。いそいで毛布をかき集めたり、あたたかいものを作ったりして、なんとか体を温めてあげなくてはと思いました。(中略)何日も家に帰れずに、そして何日もぐっすり眠れない日が続く、椅子に座ったまま眠る生活が続きましたが、避難された方を思うと、何かをしてあげたくてしかたなくなり、ほんとうにできることはすべてやったつもりです。避難された方の「ありがとう。」の一言が何より力になりました。」(えぼし荘・支配人の方のお話)</p>		

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1 【いきる】	②【自然との共存】 自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念をもち、自然と共に生きるについて考える。	理科 総合的な学習

【題材】

土谷川のカワシンジュガイ個体数調査

【対象】

3年生～6年生

【実践の概要・詳細】

3～6年生の総合的な学習の時間に、小屋瀬中学校の生徒と合同で、学校裏の土谷川に生息するカワシンジュガイの個体数を毎年調査している。子どもたちは、自分たちの身近な自然の様子に関心を持ち、保全のために自分たちができることを考え実践している活動である。



教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1 【いきる】	④【夢や希望の大切さ】 夢や希望をもつことは、生きる価値を見出すことであり、つらく厳しい状況を乗り越えられることにつながることを実感する。	総合的な学習 (キャリア教育)

【題材】

御茶炭の工房を訪ねて

【対象】

6年生

【実践の概要・詳細】

葛巻町の伝統産業の一つ炭焼きは、現在、町内でも数件しかない。学区の小屋瀬地区には、明治23年創業の工房が残っている。日本でも数少ない御茶炭を生産しており、地域の自然を活かした産業である。茶道の文化を支える高い技術を守り続ける方々の努力や誠実な仕事ぶりに接し、子どもたちは、仕事に対する真摯な姿勢や生き方について考えた。



「炭焼き工場で説明していただいたり、体験をしたりした。県内でお茶炭を作っているのは、この工場一つだけであることを聞いて驚いた。明治23年に創業したと聞いたが、長い歴史があるんだなと思った。自分の家のこと以上に炭窯の方を第一に思っている「心」がすごいと思った。

お客さんに喜んでもらうための商品づくりにむけて、炭の皮がむけたり、欠けたりしないように、毎日真剣に仕事に取り組んで、苦勞したと思うけれども、上手に作っていることは、小屋瀬の誇りだと思った。夜も炭窯の火加減の様子を見るので大変な仕事なんだと思った。」

(6年生の感想から)